

座談会 レポート

高血圧治療補助アプリであるCureApp HTについて、処方経験豊富なお2人の先生をお招きして、その導入のきっかけや診療体験の変化などをお聞きました。



幡 芳樹 先生
みなみ野循環器病院
理事長



金崎 峰雄 先生
八王子内科・消化器内科
クリニック 院長



座談会のポイント

- ✓ 患者さんの変化や取り組みの可視化が治療意欲の向上につながる
- ✓ 服薬の有無に関わらず1人では難しい生活習慣改善に取り組める
- ✓ AI要約機能で、スムーズな状況把握と的確なアドバイスができる
- ✓ 患者さんの主体性が高まりそれが診療の効率につながる
- ✓ 専門医でなくても質の高い診療が可能になる



導入のきっかけは？



金崎先生 私は消化器内科が専門ですが、日々の診療では高血圧など生活習慣病の患者さんが多く来られます。血圧の薬をただ出すだけの診療にどこか物足りなさを感じていて、「もっと患者さんと血圧について話せる診療がしたい」と思っていたんです。そんな時にCureApp HTの話を聞いて、「これは面白い」と感じました。特に惹かれたのは、血圧だけでなく体重や運動の変化が「見える化」される点。それを印刷して患者さんに渡せることで、モチベーション維持にもつながっています。薬を減らしたいと思っている患者さんにとっても、「生活習慣を見直すきっかけ」になると感じていますね。

診療にどのような変化がありましたか？

幡先生 うちの患者さんも、「できれば薬を減らしたい」と思っている方が多いです。ただ、どうすれば良いか分からない方も多い。このアプリを使えば、まず生活習慣の改善に取り組めて、その上で薬を調整するという流れが作りやすくなります。最近追加された、AI要約機能も面白いですね。患者さん自身が取り組んだ生活習慣改善や入力した情報をAIが要約してくれたものを見て、患者さんに的確なアドバイスができるようになりました。結構、患者さんとのコミュニケーションのきっかけになって、「先生、アプリにこう言われたんですけど」みたいな話が診察室で出てくるのも治療アプリならではの診療体験ですね。



患者さんにアプリをどのように紹介されていますか？



幡先生 アプリを紹介する時は、「まず生活習慣の見直しが治療の基本です」と伝えたいうえで、「その支援ツールとしてアプリがありますよ」という流れで紹介しています。スマホをお持ちでないような高齢者の方には勧めませんが、私自身が口頭で指導する内容も、最近ではアプリの指導内容と同じになってきました。

金崎先生 私は「見える化されることで続けやすくなる」という点を特に強調しています。血圧、体重の変化や、運動の取り組みがグラフで表示されて、それを一緒に見ながら「ここが良くなりましたね」と具体的に会話できます。薬を飲んでいる患者さんには、「生活習慣の改善がうまくいけば、お薬の量や強さについても相談してみましょう」と伝えています。

医師から見て、どのようなメリットがありますか？

幡先生 このアプリがあることで、患者さんとしっかり対話できる診療が可能になりました。患者さん自身が自分の状態に関心を持つようになるし、対話の質も変わってきます。生活習慣をベースにした診療が組み立てやすくなるので、結果として診療の効率化にもつながっています。

金崎先生 私のように専門医でなくても、質の高い診療ができるのがこのアプリの良さです。血圧だけでなく、体重をはじめとする生活習慣に関わる他の項目にも関心を持つ患者さんが増えており、患者さんの健康全体を支えるツールとして大いに期待しています。